

立教大学

コミュニティ政策プログラム

初級地域公共政策士資格教育プログラム

「プログラム認定報告書」

令和 5 年 1 月 27 日

一般財団法人 地域公共人材開発機構



## 目 次

### 1. 総合評価

- (1) 資格教育プログラム全体の評価
- (2) 評価すべき点
- (3) 指摘事項
- (4) 効果事項
- (5) 保留事項
- (6) 助言・課題

### 2. 項目別評価

- (1) 目的・教育目標・学習アウトカム（学習効果）
- (2) 資格教育プログラムの内容
- (3) 学習アウトカム（学習アウトカム）の測定
- (4) 実施体制
- (5) 教員及び講師

別表1 ヒアリング調査会及びプログラム審査委員

別表2 一般財団法人 地域公共人材開発機構 業務執行理事会



## 1. 総合評価

### (1) 資格教育プログラム全体の評価

適合

(社会的認証期間： 2023年4月1日～2030年3月31日)

認定番号：B220001

### (2) 評価すべき点

座学から実践への学びの中で、受講生の問題関心に応じて、一つの社会課題に対して様々な学問領域から異なるアプローチを考察できるプログラム構成は大学の特色を活かしたものであり評価できる。また、科目担当者は日常的にコミュニケーションの取れる教員で構成され、事務方とともに綿密な連携が取れる体制が整えられている点は、永続的な管理・運営体制として高く評価できるが、今後の実施運営体制について注視していきたい。

2 専修がある中で双方で共通した初級地域公共政策士像のもと、コミュニティを基盤とした福祉社会の構築に貢献できる初級地域公共政策士の育成を期待したい。

### (3) 指摘事項

### (4) 勧告事項

### (5) 保留事項

### (6) 助言・課題

・1-1-IIIにある「公的な意思決定」の表現について、「行政の意思決定」と捉えられかねないので、その意図するところを明確にしていただきたい。

・政策の基礎知識を体系的に学ぶ科目の配置、科目名として「政策」と名のつく科目の設置を期待したい。

・意図的に資格を取るように、学生の意思確認を行うなどの仕組みを検討していただきたい。



## 2. 項目別評価

大項目	中項目	書類項目	評価区分	評価内容と理由
1	1-1	A	<b>基準 1-1</b> <b>プログラムの目的、教育目標、及び学習アウトカム（学習効果）が明文化されていること。また、明文化したものを、学習者に周知する方法及び、プログラム実施機関内外に広報する方法が定められていること。</b>	<p>プログラム説明書より、明確な課題認識を踏まえて、資格教育プログラムの目的・教育目標を掲げていることを確認した。</p> <p><b>【目的】</b></p> <p>多様な主体間の協働関係を形成し、持続可能な地域社会のあり方を社会科学的に構想することができるようになること</p> <p><b>【教育目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民主主義社会の構成員として自らの力で私たちが暮らす地域社会の課題を発見し、その解決に向け、政治や社会の公的な意思決定に能動的に参加することのできる能力を身につけること</li> <li>・社会全体の問題や個々人の生活課題を、個人や家族ではなく、コミュニティで解決してくための構想を持って実践することができるようになる能力を身につけること</li> </ul>
				<p>プログラム説明書より、当機構が定める学習アウトカムの定義から、以下の学習アウトカムが定められていることを確認した。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>6-0-1：地域社会に関する様々な理論・政策・地域活動を適切に組み合わせて活用することができる。</p> <p><b>【知識】</b></p> <p>6-1-1 グローバル化する世界と地域社会の関係を理解している。</p> <p>6-1-3：対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>6-2-1：地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる。</p> <p><b>【職務遂行能力】</b></p> <p>6-3-4：業務の遂行における管理・運営への補助的な責任を分担することができる。</p>
				<p>プログラム説明書より、学習アウトカムの内容を踏まえて育成する人材像を設定していることを確認した。</p> <p>「いのちの尊厳のために」という学部の理念を理解した上で、地域の課題を</p>

			<p>解決するためのプログラムを提示し、それを主体的に実践できる人材の育成を目指す。</p> <p>プログラムを通じて、個々人の生活課題やグローバル社会全体の問題を、コミュニティで解決するための構想を持って実践することができるとともに、民主主義の構成員として、地域社会の問題解決に向けて、政治や社会の公的な意思決定に能動的に参加・参画することができる人材の育成を目指す。</p>
	1-1-IV	A	<p>プログラム説明書より、「学部パンフレット」に取得可能な資格として掲載することを確認した。このほか、学部 HP に詳細を掲載し周知を図ることを確認したが、現時点では計画段階であり具体的には確認できない。</p>
<b>基準 2-1</b> <b>プログラムの目的、教育目標、及び学習アウトカム（学習効果）を達成するため、アクティブラーニングの要素を含んだ体系的な科目で編成されていること。</b>			
<p>2-1</p> <p>2-1-I A</p> <p>【認証時の科目一覧】</p> <p>社会問題の社会学 コミュニティ開発論 フィールドワーク入門 持続可能な福祉コミュニティ コミュニティ人間形成論 公共哲学 福祉政治学 国際 NGO 論 地方財政論 政策法務 生活困窮者支援 まちづくり論 パートナーシップ論 コミュニティ学演習 1A 政策学演習 1A</p>			<p>プログラム説明書により、履修時間、ポイント付与数を確認した。 以下に評価の対象とした 15 科目の一覧を記す。</p>
<p>2-1-II B</p> <p>プログラム説明書より、2 専修ともに教育要素がバランスよく配置され、学習アウトカムを達成できるよう構成されていることは評価できるが、政策の基礎を幅広く理解できる科目について体系的に学ぶ仕組みが確認できない。</p>			
<b>基準 2-2</b> <b>プログラムの目的、教育目標、及び学習アウトカム（学習効果）を達成するために、実施する教育方法が定められていること。</b>			
2-2	2-2-I	A	<p>プログラム説明書より、各科目が学習アウトカムに連動した位置づけとなっていることを確認した。</p> <p>また、プログラム説明書で説明されている具体的な学習アウトカムの内容と</p>

			シラバスなどに記載されている教育内容との差もなく、学習アウトカムの達成に向けた各科目的教育が適切に検討され反映されている。
	2-2-II	AA	「問題意識を涵養し、それを自分事とする」「基礎的な概念から、応用を学ぶ」「座学の学びを実践に活かす方法論を学ぶ」、と段階的に学ぶ機会が設けられ、その後、実際のフィールドに出て「現場からの往還的な学び」を得るなど、理論と実践を綿密に組み合わせた特徴のある構成となっている。各演習が担当教員の専門に応じて様々な学問領域に依拠することで、一つの社会問題や生活課題を異なるアプローチで学ぶことができる点は、面白い特徴である。
	<b>基準 2-3</b> プログラムの対象となる学習者を明確に定め、それらの学習者に対応した形態で開講するように設計されていること。		
2-3	2-3	A	本プログラムは、コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科の学生を対象とし、2年次以降2つの専修に分かれるが、どちらに移行しても等しく履修できるよう配慮されている。具体的な学習者を想定し、その学習者に対応した開講形態となっていることを確認した。
	<b>基準 2-4</b> プログラムの内容やプログラム修了の基準を明文化し、学習者に周知していること。		
2-4	2-4	A	学習者に対しては、履修要項、履修ガイダンス、学部HPにおいてプログラムの概要や詳細を周知することを確認した。また1年次、3年次の必修・選択必修の科目の際、担当教員からの周知も図る。
	<b>基準 3-1</b> 成績評価の基準と方法を明文化し、学習者に周知していること。また、その基準と方法に従って、教員が成績評価及びポイント認定を行う方法について定められていること。		
3	3-1-I	A	成績評価の基準と方法はシラバスに明記され、ポータルサイトよりアクセス可能な「シラバス・時間割検索システム」で公開されていることを確認した。
	3-1-II	A	プログラム説明書より、シラバスに明記された基準と方法に基づき、科目担当教員により単位認定される。コミュニティ政策学科会議において、各科目の成績評価を確認した上で、1科目（2単位）を2ポイントとして認定することを確認した。 学ぶ学生の視点で、資格取得を前提とする学習意識が定着するような仕組みの検討を期待したい。
	<b>基準 3-2</b> 外部機関と連携した科目があり、その外部機関が学習者評価を行う場合には、外部機関が適切な学習者評価を実施する基準及び方法が定められていること。		
3-2	3-2	-	該当なし。
	<b>基準 3-3</b> プログラム修了者の学習アウトカム（学習効果）の達成度を評価する基準と方式を定め、その基準と方式		

		に従って、総合的なプログラムの学習アウトカム評価を行う方法を定めていること。（注1） (注1) COLPUが推奨する学習アウトカムの測定方法を選択することもできる。		
	3-3-I	A	推奨モデルに基づき、全プログラム修了者に対してアンケート調査を実施し、学習アウトカムの達成状況を測定する。当該年度と過年度の結果を比較することで、継続的にプログラムの評価・改善を行っていく。	
	<b>基準4-1</b> プログラムを継続的かつ円滑に実施していくための運営体制が整えられていること。			
4	4-1	A	プログラム説明書より、プログラムの管理・運営は、コミュニティ政策学科を構成するコミュニティ学専修、政策学専修の2専修によって一体的に実施される。構成科目の担当者は、「学科会議」の構成員であり、すべて専任教員であるため、科目の継続性については継続的に担保されている。毎年度の開講や科目担当者の審議については、学科の教務委員を中心に行い、事務体制も協力体制が取れている。  原則隔週で開催予定の学科会議において、プログラム関連の協議が隨時行われ、担当教員間の有機的な繋がりも担保される体制が取られている。	
	<b>基準4-2</b> プログラムの内容や運営体制等について点検、改善を実施する体制が整えられていること。			
4	4-2	A	プログラム説明書より、「学生による授業評価アンケート」が毎年実施され、その調査結果を活用し科目の点検・改善を行うことを確認した。学習アウトカムのアンケート結果についても、実施年度にとりまとめて集計し、合わせて授業改善に活用する計画である。	
	<b>基準4-3</b> 公正な成績評価を担保するため、学習者からの異議申立てに対応する仕組みが整えられていること。			
4	4-3	A	「成績評価調査制度」を用いて対応される。調査の依頼は「成績評価調査申請書」により申請し、担当教員が成績評価の誤りがないか確認、その結果については教務委員会ならびに教授会に報告される。最終的には、コミュニティ政策学科会議で内容について確認され、2段階を経た形で公正性を担保する工夫がされている。	
	<b>基準5-1</b> 適切な能力を持った教員等が、プログラムの目的や教育目標に沿って科目に配置されていること。			
5	5-1	A	プログラム説明書及び基礎データから、プログラムの目的・教育目標、及び学習アウトカムを実現するための教育要素の実施内容に沿って、科目の教員が配置されていることを確認した。	
	<b>基準5-2</b> プログラムの構成科目を担当する教員及び教育支援者について、その教員等が以下の各号のどの項目に該当するか、またその教育に関する能力について説明すること。			
5	5-2	A	プログラム説明書及び基礎データから、科目内容に合致した教員が配置されていることを確認した。	

別表1 「ヒアリング調査会及びプログラム審査委員」構成

項目	氏名
大学等に所属する専任教員	大石 尚子（龍谷大学政策学部 准教授）
実務経験者	梅原 豊（公益財団法人京都産業21 京都中小企業事業継続・創生支援センター 審査役）
実務経験者	平尾 剛之（一般財団法人社会的認証開発推進機構 理事）
機構役員	富野 晉一郎（一般財団法人地域公共人材開発機構 副理事長 ／元福知山公立大学 副学長）

(順不同、敬称略)

項目	氏名
機構事務局	青山 公三（一般財団法人地域公共人材開発機構 専務理事）

別表2 「一般財団法人 地域公共人材開発機構 業務執行理事会」

項目	氏名
代表理事	新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科 名誉教授）
副理事長	富野 晉一郎（元福知山公立大学 副学長）
専務理事	青山 公三（京都府立大学 名誉教授）
業務執行理事	白石 克孝（龍谷大学政策学部 教授）
業務執行理事	中谷 真憲（京都産業大学法学部 教授）

注記) 社会的認証規程1、第11条、第13条、第25条に則り上記の審査員及び業務執行理事が特定の利害関係を有する場合は評価に加わらず社会的認証の内容を審査した。